みどりの地球を みどりのままで

# 共生の時代

●ホームページ　http://www.greencoop.or.jp/

'11 10月

●発行:グリーンコープ共同体理事会　●編集:共生の時代・編集部　●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階　TEL092（481）7923 FAX092（481）7876

## 脱原発署名に参加しましょう

2011年10月～11月

今こそ脱原発社会に向けて
組合員の声を届けましょう

Contents

千年の草原を守る「阿蘇草原再生募金」の取り組みをすすめます　2

うちのメーカー・うちの生産者 ⑫
JA福岡市　産直赤とんぼ米　3

グリーンコープは学校法人設立に向かいます
赤とんぼ米の包材デザインが変わります　4・5

東日本大震災の被災地である宮城県、岩手県で組合員の代表が現地視察を行いました　6

北海道の小麦と納豆用大豆の生産者との交流報告
北海道の生産者が丹精込めて作ってくれる小麦と大豆

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑤　7

グリーンコープの輪・和・環

■プロフィール■

広島市生まれ、島根県大田市在住。夫、長女（中２）、二女（小６）、長男（小１）、三女（３歳）の６人家族。市立図書館で毎月１回、「おはなし会」を開催。２００３年にグリーンコープ生協（島根）の大田地区委員会に参加し、現在は委員長を務めている。

# 子どもたちが喜んでくれることが好き

おはなしボランティア「つくしんぼの会」代表　**坂井　智子**さん

児童教育を専攻していた大学時代に入っていたサークルの人形劇やレクリエーション活動で演じる喜びを知った。就職後も細々とだが活動は続けていた。結婚して島根に来てからは知りあいもなく寂しいので何かしたいと思い、読み聞かせのボランティア活動をはじめた。その後、夫の県内異動先ではおはなし会の活動に参加してきた。次第に絵本の面白さに魅せられ、家でも子どもと楽しむ日々が続いた。

ところが９年前に引っ越してきた大田市の図書館では、乳幼児を対象とするおはなし会はなかった。そこで読み聞かせが好きな友だちと２人で「つくしんぼの会」を立ち上げ、毎月１回、おはなし会をはじめた。

「自分が講座などに参加して楽しかったら、すぐやりたい、どうしたら楽しくなるかなと考えたりすることが好きなんです」と言うように、坂井さんは興味がある講座があったらすぐに一人でも出掛けて行く。６年前に参加したわらべ歌の講座で、わらべ歌は子どものからだにふれたり、顔や頭をさわりながら唱えるなど親子で手軽にスキンシップをとることができるということを学んだ。もっとわらべ歌を学びたいと思っていた時に、島根県や社会福祉協議会がボランティア団体の活動に助成するという事業があることを知りすぐに申請。数年間、会で講座を主催した。「今ではわらべ歌を取り入れたおはなし会が定着し、参加者が常時10数組になりました」と坂井さん。

こうした独自性のある活動が評価され、２０１０年度は島根県が子育て支援に積極的に取り組む団体等に贈る「こころ大賞」を受賞。活動の励みになった。

家では夫と４人の子どもたちも協力的だ。ときにはおはなし会のリハーサルの観客になってくれる。わが子にも寝る前には読み聞かせをしたり、わらべ歌で遊んだりするなど自分の楽しみを子どもとも共有している。「生協活動も大田市にきてからの関わりですが、いい仲間に恵まれてきました。自分のやりたい学習会などが実行できるので楽しんで今でも続けています。私は人がするのを見たり聞いたりするよりも、読み聞かせやわらべ歌など子どもたちが喜んでくれることを自分がするのが好きなんだ、ということに最近になって気づきました。老後の楽しみになるように細く長く続けていきたい」と坂井さんは語る。

## 送信

わが家のグリーンコープ配達日は水曜日。当然その日は冷蔵庫も冷凍庫もいっぱいになり、揃った食材を見てニンマリ。

水曜日は近くに住む独り暮らしの義理の母の元に主人や子どもたちと行って親子三世代で夕食を食べる。義理の母の得意料理は煮付けと味噌汁。年季のはいった筑前煮は美味しくて少しお砂糖はきいているがホッとする味わいだ。私の得意は炒め料理といったところだろうか。最近はエコシュリンプを甘酢で絡めた中華風の料理が美味しいと褒められた。

グリーンカタログに載っている〈おすすめレシピ〉はかなり枚数がたまりストックしてある。この中から夕飯のメニューを決めることも多い。子どもたちも「ばあちゃんの煮付けと味噌汁は美味しい！」と言えば義理の母もニンマリ笑顔。水曜日、週に１度の三世代夕食タイムを楽しんでいる。

グリーンコープ生協みやざき理事長　永野　清美

# 千年の草原を守る
# 「阿蘇草原再生募金」の取り組みをすすめます

阿蘇草原再生

**阿蘇は、世界最大級のカルデラ。雄大な外輪山に囲まれた盆地の中に幾つもの町や村などがあり、現在も火山活動が続いている中岳など5岳を抱える地帯です。**

**そこには、放牧や採草など人々の暮らしと自然とが織り成す広大な草原が、千年の歴史を紡ぎ広がっています。しかし今、地下水の涵養（かんよう）や貴重な生命資産が失われようとしているなど、草原は危機に瀕しています。**

**先人から託されているこの貴重な恵みを後世に引き継ぐために、２０１０年秋からグリーンコープ生協くまもとが「阿蘇草原再生募金」に取り組んでいます。各単協も順次募金活動をスタートさせています。**

野焼き

## 組合員の思いと多くの力を寄せあって

１９９０年頃、熊本県内の大学教授などが提唱した「都市と農村が連携し、行政や企業の協力を得ながら、阿蘇の緑の生命資産を後世に引き継いでいこう」という「グリーンストック運動」にグリーンコープ生協くまもとの前身生協の組合員が共感。「阿蘇の大自然をみんなで守っていこう」と募金活動を行い、１万２千人の組合員によって約４，３００万円の財源を作った。組合員や県内の団体、個人の協力を得て１９９５年阿蘇の環境保全に取り組む（財）阿蘇グリーンストック（以下、グリーンストック）が誕生。以来、グリーンコープ運動を豊かにする取り組みとして、グリーンコープはくまもとと共にグリーンストックに連帯してきた。

グリーンストックでは、あか牛の産直、牧野の実態調査、あか牛のオーナー制度、野焼き・輪地きりのボランティアの組織化など、草原や農業・水資源を守るための活動に積極的に取り組んでいる。

## 「阿蘇草原再生募金」スタート

２００５年、阿蘇の自然を守り、草原再生に取り組んでいた個人・団体が「阿蘇草原再生協議会」を設立。２０１０年には、草原再生や恒久的な保全の仕組み作りのために、阿蘇草原再生協議会・グリーンストックなどが呼びかけ、国、熊本の行政、経済界、報道機関、各種団体などによる「阿蘇草原再生千年委員会」が発足。グリーンコープもメンバーとして参加。11月には「阿蘇草原再生協議会」の下に「阿蘇草原再生募金」が創設され、大きく取り組むことになった。グリーンストックは事務局を担っている。

グリーンコープでは、２０１０年度のくまもとを皮切りに、ひろしま、ふくおか、さが、かごしま、おおいたが取り組んでおり、グリーンコープのすべての単協が募金活動を行うことになっている。グリーンコープ共同体代表理事田中裕子さんが「阿蘇草原再生千年委員会」に参加。「委員会では、3年間で1億円という『阿蘇草原再生募金』の目標を達成するための具体案や、世界遺産登録をめざすことなどを検討。グリーンコープでは学習会を開催する単協もあり、組合員の理解を深めながら募金活動をすすめています」と話す。

## あか牛の利用を広げたい

起伏の多い草原は、人の手だけで守ることはできない。あか牛は35度の傾斜地でも登ることができ、草を食べ、踏みしだくことで草原をすみずみまで再生させる。有畜農家を増やすためにも、あか牛の利用を広げる必要がある。

グリーンコープでは、「阿蘇草原再生キャンペーン」として、ぶ産直肥後あか牛の利用を広げる取り組みを２０１１年９月から２ヵ月間取り組んでいる。また、ぶ産直肥後あか牛を使ったハンバーグの商品化も行う。多くの組合員が利用することが、草原の再生につながるのだ。

## これまでに集まった１，９００万円の活用

既に２０１０年11月から２０１１年３月までに、約１，９００万円の募金が集まっている。第一弾の助成、約１，４００万円が「阿蘇草原再生協議会」で決定された。

**①繁殖あか牛購入への助成**
一頭あたり６万円助成、背中に「（阿蘇）草原再生」の印をして放牧する予定

**②野焼き（管理）放棄地の草原再生活動に助成**
高齢化などで野焼きのできなくなっている地域の内、今回は1カ所に助成

**③あか牛の普及・啓発と環境教育に助成**
２０１１年中にあか牛の肉を阿蘇郡・市内の小中学校の給食で利用など

**④阿蘇の草原文化と草原利用のPR活動への助成**

**⑤野焼き支援ボランティアの運営管理に関する助成**
阿蘇の緑の資産をこれからの世代に引き継ぐために、３年間で１億円の目標をめざして募金活動はすすめられる。

# 阿蘇の草原の危機

**オオルリシジミ**
クララという草でしか育つことができない蝶

## 翻弄される草原

平安時代の文献に阿蘇について馬の産地としての記述があり、当時既に草原が広がっていたことが分かる。それから千年以上にも及ぶ歳月、原野はそこに住む人々によって共同利用され、明治以降は農畜産業などに活用されてきた。しかし、日本の第一次産業の衰退に伴って林業や農畜産業は減少。その上牛肉の輸入自由化により、あか牛の放牧も激減している。1998年から2007年までの9年間で、有畜農家は４割減少。後継者のいる所は2割強。野焼きなどの作業をする入会（いりあいけん）権を持つ人たちの平均年齢は57.７歳だ。

現在169ある牧野組合が管理する草原は約2万2,000haある。牛馬の餌になるススキやネザサの芽吹きを促し、ダニを駆除し、森林化を抑えるためにする野焼き面積は約1万6,000ha。周辺への延焼を防ぐための輪地切りの長さは約500㎞。草原を維持するために毎年行われる大切な作業だが、牧野組合だけではとても維持できないのが現状だ。(2007年度牧野組合調査より)

## 貴重な水、希少な動植物の生息

草原は森林に劣らない地下水を涵養する力をもっている。阿蘇は九州の一級河川6本の源流域、九州の水がめとして、230万もの人々の暮らしや各種産業を支えている。

阿蘇の草原に生息する植物は約600種。また、湿地にはモウセンゴケ、サギソウなど学術的にも貴重な植物が生息。牛馬の放牧によって草丈が保たれ、牛の嗜好によって食べ残されるオキナグサやクララなどが多く生息する独特の生態系が見られる。

全国の草原が減少する中、阿蘇の草原は生物多様性の宝庫といえる。草原が育む生命のためにも、大切にしたい貴重な環境だ。

うちの生産者 112

JA福岡市

うちのメーカー

# 組合員の思いを受けとめ 安心・安全な米を作り続ける

## ふ産直赤とんぼ米

朝夕は赤とんぼが無数に飛び交い、水田に白サギがカエルや虫をついばみにやってくる。そんな里山の風景が広がる福岡市西区金武（かなたけ）の田園地帯。ここでも、グリーンコープの「ふ産直赤とんぼ米」が作られています。

全国に先駆けて30年ほど前から無・減農薬での米栽培に取り組んでいるJA福岡市。グリーンコープの「ふ産直赤とんぼ米」の約5分の1を生産しています。金武で米を作り続けている松村角之助さん（JA福岡市普通作研究部会代表部会長）とJA福岡市の持田徳幸さん（営農販売部米販売課課長）に、米作りにかける思いと、無・減農薬栽培普及の取り組みについて聞きました。

赤とんぼ米Aを栽培している松村角之助さん

無農薬栽培の田には、たくさんの生き物がいる。春にはトンボの幼虫ヤゴをはじめ、オタマジャクシやクモ、カブトエビ…、それらをえさにするツバメやサギなどの鳥も来る。日本に昔からあった本来の生態系が、水田の小さな世界に広がる

### 虫の種類を見極めて 減農薬栽培へ

JA福岡市が米の減農薬栽培に取り組みはじめたのは、1980年代の前半。当時は収穫した米の全量を国が買い取っていた時代、収量を上げて収入を増やすことを目的に、大量の農薬が使われていた。そんな中、体調を崩す生産者が続出。なんとか農薬を減らして米作りができないかと、当時福岡県の農業改良普及所職員だった宇根豊（ゆたか）[※1]さんの指導のもと、早良（さわら）区の女性グループ「ときわ会」が減農薬栽培に取り組んだ。

宇根さんは「田んぼには害虫・益虫・ただの虫がいる。それを見極めれば農薬の使用回数は減る」と説き、生産者が田の虫を観察できる「虫見板」を作った。JA福岡市ではこれを米生産者3千人に配布。虫や稲の状態を観察し、害虫が増えるタイミングを見計らって散布するようにしたことで、農薬使用量は劇的に減っていった。

1983年、安心・安全な米を探していたグリーンコープの前身生協が、JA福岡市が減農薬に取り組んでいることを知ったことから取引がはじまった。現在、赤とんぼ米生産者は約450人。生産する米約3万俵のうち約2万俵をグリーンコープに出荷している。

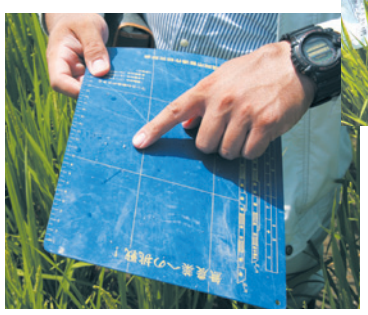
### 無・減農薬でおいしい米を

松村さんは若い頃、稲作の傍らバラの栽培をしていた。当時は危機感もなくハウスの中で浴びるように農薬を散布していた。1年もたたないうちに急性肝炎になり、花の栽培を断念。米も無農薬栽培に切り替えた。1990年頃、グリーンコープとの取引は再生産可能な価格で出荷できると聞き、普通作（ふつうさく）研究部会[※2]に参加した。

松村さんは無農薬で栽培するため、さまざまな工夫をしている。苗（株）の数を減らして株間を広く植えることで、風通しがよくなり太陽光を存分に浴びて、病気になりにくく元気な稲が育つ。また、肥料を与えすぎると虫がつきやすいので肥料を少なくして育てている。米はタンパク質の含有量が低いほどおいしいと言われる。肥料を減らすことで収量が減ることはあるが、低タンパクになり食味は良くなる。

JA福岡市で栽培している赤とんぼ米は、「夢つくし」、「元気つくし」、「ひのひかり」、「にこまる」の4種。松村さんが現在栽培しているのは「元気つくし」。福岡県で開発された暑さに強い品種だ。「収量は少ないけど、おいしい。うちの孫はまず最初にごはんから食べるよ」と松村さん。福岡市西南部の山すそに位置する金武地区は、昼夜の温度差、粘土質の土、ミネラル分の多い水と、おいしい米を作る条件が3拍子そろっている。

JA福岡市の現場担当職員が無・減農薬栽培の田を中心に定期的に巡回して、害虫や病気の発生がないか、虫見板を使い調査している。情報は生産者にメールで知らせるシステム。写真は調査中の髙宮太さん（JA福岡市早良グリーンセンター）



稲の株下をたたいて虫見板の上に虫を落とし、害虫の数や割合を観察し、田の状態を確認する

### 気持ちも新たに 食べる人の思いを感じて

安心・安全な米が食べたいという組合員の願いに、作って応える生産者がいる。そしてずっと安心な米を食べ続けられるように、生産者が継続して生産できるように、グリーンコープは赤とんぼ米に生産奨励金を設けて応援している。互いに支えあう関係を大事にしているからこそ、この産直関係は成立している。

2010年、その思いを、生産者の努力を、無にする事件が起こった。「ふ産直赤とんぼA（農薬不使用）」を栽培していた一人の生産者が、除草剤を使用したことを報告せずにそのまま出荷していたことが分かった。

「高く売りたいから無農薬米を作ってきたわけじゃない。自分たちのために安全な米を作りたいと農薬を使わずにやってきた。なぜこんなことになったのか」。松村さんは静かに、だが重い口調で語った。

事件後、グリーンコープは組合員に「ふ産直赤とんぼA（農薬不使用）」として販売したすべての米の代金を返金、JA福岡市がその代金を負担した。JA福岡市と普通作研究部会は、改めて産直の関係を大切にしようと生産者同士で検討を重ね、組合員との交流会により積極的に参加するようになった。持田さんは生産者の意識の変化を実感しているという。「今年は生産者の自覚が違います。組合員さんの思いが伝わったんでしょう。『がんばってちゃんと作らんと』とこれまで以上に顔の見える関係の大切さを感じているようです」。

松村さんも「産直の関係では、直接組合員さんの話を聞くことができる。おいしい米を作ったら『おいしい』と言ってくれる。その顔を思い浮かべて、おいしくて安全な米を届けたいと作っています」と言う。

### 農業が元気になれば 日本も元気に

8月下旬、「今年は春先の冷え込みでジャンボタニシがたくさん死んで数が減ったから、夏の暑い盛りに草取りが大変だった」と穂が出だした田を見渡して松村さんは言った。「株の張りや穂の出具合はいつもよりいい。あとは台風さえ来なければね」と今年の収穫に期待している。

グリーンコープは今年、「お米と野菜を食べよう！」の取り組みで、米の定期予約を呼びかけている。持田さんは「予約が増えて米の消費が伸びれば、無・減農薬栽培の農家を増やすことにもつながります」と予約の取り組みの意義を話す。最後に松村さんが言った。「農家が元気になれば、日本も元気になるんじゃないかな。農業が日本の原点だったんだから」。

赤とんぼ米を生産することで、日本の農業、自然を守り、さらには日本全体が元気になることを祈って、今年も松村さんたち生産者が、安心・安全でおいしい米を届けてくれる。

※1 農薬に依存しすぎる農業に疑問を抱き、減農薬運動を提起。水田の農薬散布を減農薬の方向へと導いた

※2 JA福岡市の米生産者の会。生産者が米について自ら考え、情報交換を行っている

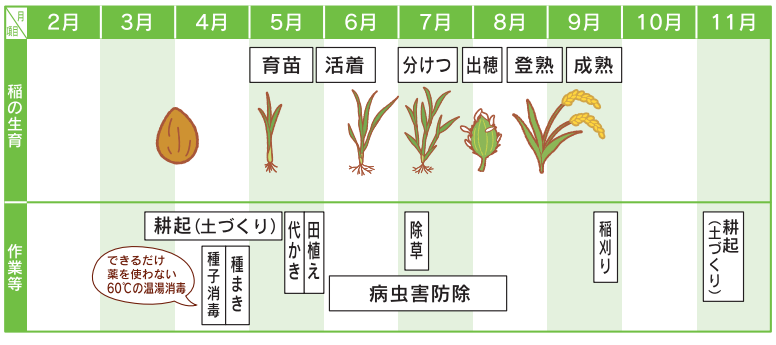
除草剤を使わないためにJA福岡市が取り入れているのが「ジャンボタニシ農法」。稲を食害するため厄介者だったジャンボタニシを、田の水深を調節して雑草を食べるように利用する

### 赤とんぼ米の栽培基準

| 栽培段階 | 栽培内容 | 品名 |
|---|---|---|
| 有機栽培 | 有機栽培（3年以上、化学合成農薬・化学肥料を使わずに栽培）でJAS法による有機の認定を受けた米 | 赤とんぼ有機栽培 ○○○ |
| 無A農薬 | 化学合成農薬不使用 | 赤とんぼA ○○○（農薬不使用） |
| 減B農薬 | 種子消毒には化学合成農薬不使用、収穫までに使用できる化学合成農薬は成分剤数で4剤以内 | 赤とんぼB ○○○ |
| 減C農薬 | 種子消毒から収穫までに使用できる化学合成農薬の成分剤数は10剤以内 | 赤とんぼC ○○○ |

※○○○の中に夢つくし、胚芽精米などの品名が入ります

### 稲の生育と年間の作業



# グリーンコープは学校法人設立に向かいます

グリーンコープは、生命（いのち）に寄りそう希いから、家族の健康と未来を守り、安心で心豊かな暮らしを実現するために、食べもの運動に根ざして、農業・環境・平和・民衆交易・高齢者福祉などさまざまな活動に取り組んできました。誰もが助けあい支えあう地域社会の実現をめざして、生活再生やホームレスの問題にも取り組みを広げてきました。

子育て応援については、子育てサポートワーカーズによる直接的な支援や、子育て応援総合情報誌グープ、カタログキッズGREENでの情報提供など、少しずつ取り組みを広げてきました。

そして、2012年春、幼稚園の建設、学校法人の設立という新たな分野に踏み出すことになりました。同時期に、福岡市東区に社会福祉法人グリーンコープが主体となって取り組む、松島りすの森保育園が福岡市の認可を受けて、開園を予定しています。

2011年6月15日の共同体通常総会で、学校法人設立について可決承認されたことについては、本紙7月号で報告しました。

今号では、進捗状況、これまでの経過と考え方について報告します。

## 学校法人設立に向かうまでの経過

2010年9月、福岡市東区にある現香椎幼稚園の存続委員会の皆さんとの出会いがありました。福岡県立福岡女子大学構内にある現在の幼稚園が、県による大学の改革計画によって土地の返還を余儀なくされ、2012年3月閉園が決定された状態でした。存続委員会はそれを受けて、地域と共に50有余年歩んできた幼稚園の灯を消したくないと保護者と教職員の方々が存続を求めて1年間活動してきました。

存続委員会の方々のお話を受けて、その熱意と現香椎幼稚園の教育と保育内容に共鳴し、グリーンコープとして存続のために協力できる道を模索することになりました。具体的には、移転して新幼稚園を建設すること、その後の経営にグリーンコープが責任を持つことを示して、現在幼稚園を運営する学校法人理事会から継承を受けることができないかと考えました。

その考えは現学校法人理事会にお伝えできましたが、話しあいのためにお会いすることは叶いませんでした。

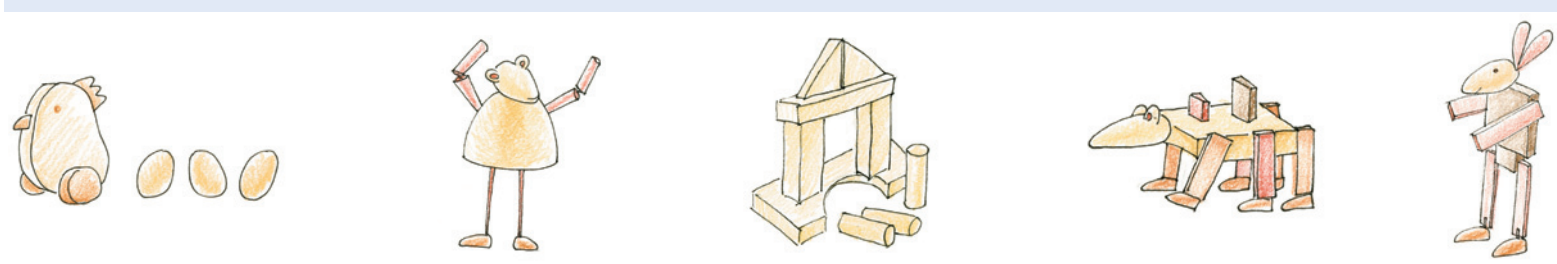
膠着（こうちゃく）状態が続く中、グリーンコープは、存続委員会の皆さんに次のように申し述べました。「幼稚園に働く教職員や子どもたちの悲しみを第一義とする立場から、この間の経過について、無条件に現学校法人理事会に謝罪し、理事会の心を開くという道だけがあるように思います。大変つらいことは思いますが、職を失って途方に暮れるであろう教職員や廃園になって傷つく子どもたちの悲しみを第一義に考えてください（一部抜粋）」というものでした。

それに呼応して、存続委員会のメンバーである父親から「これまでの活動を主に担ってきたお母様方は、自分たちの活動を全否定することに納得がいかず、委員会での議論は長時間に及びました。存続委員会を立ち上げたのも、6万人の署名を集めたのも、新聞を作ったのも、街頭で配布したのも、全部、私たち父親ではなく、母親たちですので、その気持ちは当然のことと思います。しかし、保護者を代表する私たち存続委員会は、結果に責任を負わなければなりません。社会の関心を集め、地域からの支援をいただくようになり、そしてグリーンコープという最大の理解者を得たことはこれまでの活動の大きな成果だと考えています。それでもなお理事会を動かすことができなかったということは、厳然たる事実であり、それは私たちの活動の失敗を意味します。私たち存続委員会はそのことを厳粛に受け止め、最大にして唯一の目的である幼稚園の存続のためには、閉園問題が持ち上がる前には少なからず抱いていたであろう理事への尊敬の念を思い起こし、彼女たちの尊厳を踏みにじった私たちの態度を素直に反省した上で、その気持ちを誠心誠意お伝えすることが不可欠である旨を、私はお母様方に話しました。感情的には納得できないお母様もいたとは思いますが、最終的には全員一致でこの結論に達しました」という文書を受け取りました。

2011年1月に存続委員会の皆さんは、現学校法人理事会に無条件に謝罪し、2月には福岡県議会に対して、存続のために2009年に提出していた署名を全面的に取り下げました。しかし残念ながらお会いしたいとの願いは実りませんでした。

受けて、このようなつらい意見交換を経て、幼稚園教育の存続への願いを繋ごうとした存続委員会のメンバーである母親や父親たち、何よりもこの問題が解決できなければ通園する幼稚園を失う子どもたちの存在を第一義にしたい、人間として連帯したいとグリーンコープは考えました。2011年3月にグリーンコープ共同体と社会福祉法人グリーンコープとグリーンコープ生協ふくおかは、保護者・教職員の皆さんと手を携えて、共同して新しい学校法人の設立と幼稚園の建設に向かっていく検討に入りたいと考えをすすめました。

この間、共同体理事会では、存続運動と出会う中で、1人の母親として、1人の女性として、1人の人間として率直に検討を重ねてきました。そして、存続のための苦しい運動を重ねてきた保護者の思いや幼稚園を失う子どもたちに連帯していきたいと考えました。



## 赤とんぼ米の包材デザインが変わります

赤とんぼ米A・B
グリーンコープやまぐち生協　藤本幸子さんの作品

赤とんぼ米C
グリーンコープ生協ふくおか　大江明子さんの作品

２０１１年度、グリーンコープは「お米と野菜を食べて、安心・安全な食べものと日本の農業を守り、健康に生活していきましょう」に取り組んでいます。産直赤とんぼ米にもっと親しんでもらおうと、組合員にお米の包材のデザインを募集しました（６月６日から７月９日）。応募作品２１４点の中から単協、共同体理事会で選考した結果、赤とんぼ米Ａ、Ｂと赤とんぼ米Ｃの包材２点を選びました。産直赤とんぼ米は10月中旬から順次新しい包材に切り替わっていきます。

組合員の力作が包材になった赤とんぼ米が届くのをお楽しみに。

### 共同体・単協での検討が終了し、学校法人設立が承認されました

２０１１年６月15日グリーンコープ共同体第五期通常総会の第六号議案「学校法人設立の件」、グリーンコープが学校法人設立に向かうことについて―もうひとつの夢ヲかたちに、もう一つの第二地域の創出へ。そして「人間と人間の連帯」に向かって―は、保留３票、賛成多数で可決承認され、グリーンコープは学校法人設立に向かうことになりました。

このことは、今回、福岡市にある香椎幼稚園存続委員会の皆さんとの出会いを受けて、グリーンコープ運動として、学校法人を設立し、幼稚園建設へと向かうことを意味します。立ち上げる幼稚園は、新たに設立していく学校法人グリーンコープが主体となって、自立して行っていくものです。その母体を、現香椎幼稚園の保護者と教職員の方々とグリーンコープ（グリーンコープ共同体、グリーンコープ生協ふくおか、社会福祉法人グリーンコープ）が共に担っていくことになります。

### 学校法人設立と幼稚園建設の資金は、福祉活動組合員基金からの拠出が決まりました

グリーンコープ共同体の各単協でも、学校法人設立に向けた組合員検討がすすめられてきました。今回、幼稚園を建設する当該の単協であるふくおかでは、共同体通常総会の前日、６月14日の第十一期通常総代会で活発な議論が行われ、賛成２２５票、反対49票、保留99票で可決・承認されました。それに先だって、ふくおかの各地域理事会、支部委員会などさまざまな機関会議で組合員による活発な意見交換がなされてきました。総代・組合員が、グリーンコープはどうありたいかを自分の心と会場の中で問い、話し、考えあった総代会でした。

また、学校法人が設置する幼稚園の土地と建物は自己所有であることが求められ、それは寄付によって行わなければならないと定められていることから、その建設資金約４億円が必要です。財源は福祉活動組合員基金からの拠出を検討し、福祉活動組合員基金を持つ８つの単協に寄付を申請していくこととしました。具体的には、資金の５分の４をふくおかの福祉活動組合員基金、５分の１をふくおかを除く７単協の福祉活動組合員基金、非課税限度額の２千万円を連合からと考えました。該当の単協での寄付の申請、拠出の検討がすすめられ、承認されました。

### 学校法人グリーンコープ新香椎幼稚園建設委員会で検討がすすめられています

一方、学校法人グリーンコープ設立と幼稚園の建設については、検討・準備をすすめていく主体として、「学校法人グリーンコープ新香椎幼稚園建設委員会」が２０１１年５月に発足しました。単に現在の香椎幼稚園の存続を願い活動してこられた保護者や教職員の方々の活動の延長線上にあるグリーンコープ自らがめざす学校法人と運営していく幼稚園を、自分たちで考え、計画して、実現していく関係をつくっていくことを目的としています。建設委員会は、現香椎幼稚園の保護者の代表、教職員の代表、そして、新香椎幼稚園が建設されるグリーンコープ生協ふくおかの代表、グリーンコープ共同体の代表、社会福祉法人グリーンコープの代表ら17人のメンバーで構成されています。共同代表は、現香椎幼稚園園長の田北和子さん、グリーンコープ共同代表理事の田中裕子さん、グリーンコープ生協ふくおか理事長の田原幸子さん、社会福祉法人グリーンコープ理事長の行岡良治さんの４人です。設立代表には行岡良治さんが互選されました。

建設に向けて具体的な検討がすすめられ、建設予定地は現幼稚園から車で５分ほどの所にある、福岡市東区照葉（アイランドシティ）と園なります。小学校と保育校が隣接した新興住宅地で、年齢の子どもが多い地域です。幼稚園の教育や運営のあり方、経営計画、その他検討すべきことをテーブルに挙げて、検討・準備をすすめています。また、学校法人の設立申請の諸手続もすすめています。７月末には福岡県への申請を行いました。通常学校法人の設立認可は申請から最短でも２年かかります。予定されている現香椎幼稚園の閉園（２０１２年３月）を引き継ぐ形での認可が難しい情勢ですが、福岡県と相談しながら最善策を考えていく予定です。２０１２年４月に学校法人の認可が間に合わないことも想定して、同時期に「幼稚園」教育を実態的に営む施設を開園する準備をすすめています。

### 学校法人設立によって、グリーンコープ運動が広がり、より生活に、より地域に近づいていくことになると考えます

この出会いを通してグリーンコープ運動がもっと豊かに広がっていくことを実現したいとも考えました。

１９９３年、理事長会が起草した『中期計画基本構想～夢ヲかたちに』がグリーンコープ連合総会で採択されました。それは、①教育・文化②地域福祉③環境・農業の三点をグリーンコープの『中長期』の骨子とするものでした。しかし、『教育』については、これまで具体的な検討は行われてきませんでした。当時、マスタープランの柱の一つに教育が掲げられていましたが、具体的な検討は今回が初めてです。今回、思いもかけず、「香椎幼稚園の存続問題」という形で検討することになりました。グリーンコープの初代会長の故武田敬二郎さんが、「グリーンコープの小学校と大学を作ろう」という夢を話されていたことが思い起こされました。

「夢ヲかたちに」を起草してから現在までの間、私たちは食べもの運動を大切にしながら、暮らしの中で生じる課題について、生協という枠で「助けあい」の力で解決を図ってきました。その上で、生協の枠では取り組めない課題については、その解決にふさわしい法人を設立して、実現してきました。「社会福祉法人」を設立することや、介護保険事業や生活再生事業の場合は、その専門性に負う資格も備えました。学校法人の設立も、これと同じ考えに基づいていきます。

学校法人を設立することは、ふくおかに限らずグリーンコープすべての地域においても、同じような可能性が生じた時に、学校や幼稚園の設立が可能になるということを意味します。新香椎幼稚園を直接利用できる組合員は限られますが、今回の検討の経過などをグリーンコープ全体の財産としていくことが可能です。設立される学校法人グリーンコープは、それ自体の経営責任を負った上で、大きくグリーンコープ共同体の一員となり、14のグリーンコープの単協、グリーンコープ連合、社会福祉法人グリーンコープ、グリーンコープ共済生協連合会というそれぞれの主体と連帯して歩んでいくことになります。それは、社会福祉法人がそれ自体の社会的責任を持ち、同時に地域の中で育まれ、グリーンコープに集う組合員とワーカーズと共に、その事業と活動をすすめていくということと同様のことです。学校法人設立はより地域を豊かにして、グリーンコープ運動を広げ、深めていくこととなると考えます。

# 東日本大震災の被災地である宮城県、岩手県で組合員の代表が現地視察を行いました

シリーズ(1) 被災地復興の今

## ～グリーンコープは現地の人々に寄り添いながら息の長い支援を続けます～

**グリーンコープはこれまで、救援物資を被災地に直接届ける支援を行ってきました。被災地では仮設住宅への転居がすすみ、食品販売店が再開されるなど、経済活動が復興されつつあります。そこでグリーンコープも生鮮食品などの物資提供中心の緊急救援から長期的な支援に入りました。**

**グリーンコープはホームレス支援全国ネットワークと生活クラブ生協との三者で「東日本大震災被災者支援共同事業体」をつくり、長期的な視点に立った支援を続けていくことにしました。その中のひとつとして、石巻市折浜（おりはま）・蛤浜（はまぐりはま）の漁村・漁業の復興と水産加工業者の工場再建の二つの支援に取り組んでいます。**

**2011年8月20～22日、共同体理事3人が現地を視察しました。視察のようすを報告します。**

石巻市で被害のあった沿岸。髙橋徳治商店の髙橋社長から話を聞く。周辺は地盤沈下で1m近く低くなった

グリーンコープの職員がボランティアとして入っている西光寺にて。左から、グリーンコープ生協ふくおか理事長の田原さん、グリーンコープ生協ひろしま理事長の林さん、グリーンコープ共同体代表理事の田中さん

### 被災者や支援団体の話

宮城県石巻市では、グリーンコープとも取引のある、髙橋徳治商店を訪ねました。社長の髙橋さんは、「事業を続けることの意味や役割を悩み考えた」と言います。次に訪れた共同事業体が漁業支援をすすめている折浜・蛤浜は、行政の支援が届きにくい小さな漁村です。蛤浜の区長の亀山さんは、「集会所での避難生活を切り盛りする中で見えてきたことを、今後に生かしたい」と9戸の住民を気遣っています。

仙台市のNPO法人ワンファミリー仙台では、理事長の立岡さんが、「被災者個々のニーズにあった支援体制が必要になる。そのための人材育成に取り掛かっている」と力強く語りました。岩手県では、遠野市に拠点を持つ、NPO法人遠野まごころネットを訪ねると代表理事の佐藤さんが、「支援先がだんだんと個人に縮小していく中で、ノウハウを持たない団体は撤退していく。私たちは被災者とボランティアをつなぐコーディネーターの役割を担い最後まで残って支援する」と強い決意で臨んでいます。

今回出会った被災者の方々は、自分のこれまでの生き方を再確認しながら前に進んでいくことを考えています。「避難先で1個のおにぎりを分けあった、あの時込み上げてきたあたたかな気持ちを決して忘れることはない」。現地で被災者が幾度も話された言葉です。そして支援者の方は、そんな被災者のそばで、「今の自分の生きている日常に向き直り、改めて感謝の気持ちが増している」と言っています。これからもグリーンコープは被災者の視点に立ち、最後まで支援を続けていきます。

▲石巻市の被災した住宅地。1階部分は津波が突き抜け柱を残し、空洞と化した。元の姿を保つ2階部分と明暗が分かれる。街全体、同じ様な光景が続く。人影はない。「黒い壁」と呼ばれる津波の恐怖を感じる

海岸沿いの被災した髙橋徳治商店の第二工場。腐った魚、流れ着いた化学薬品、ヘドロ。すべてを飲み込んだ津波の凄まじさ。生あたたかい空気にのって強烈な異臭がただよう。いまだ再建の目途は立っていない ▶

## 絶望の中にも光が

**グリーンコープ共同体代表理事　田中　裕子さん**

被災地の現状を目にしたとき、これまで切り取られた紙面や報道でしか知る事の出来なかった現実を目にし、五感で感じる現実に言葉を失い、心が押し潰されそうでした。そして、災害から半年が経過しようとしているとは思えない現状は、先の見えない不安に心が塞ぐばかりでした。ですが、現地の復興にグリーンコープと共に懸命に取り組んでおられる方々、被災をされても前を向いて生きておられる方々、多くのボランティアの若者との出会いは、絶望の中でも、幾筋もの光を感じることができました。

グリーンコープがこれからも人と人とがつながり、支えあい助けあうことで乗り越えていくことの大切さを心に刻み、一人でも多くの組合員に出会い伝えたいと思いました。

## 被災者のみなさんの痛みを私たちは忘れない

**グリーンコープ生協ひろしま理事長　林　和子さん**

津波の爪あとを目の当たりにして、被害の甚大さに言葉を失いました。建物の残骸や瓦礫から、この地にあったはずの平穏な日々の暮らしが思われ、声なき声に心が痛みました。お辛い中、想いをお話頂いた髙橋徳治商店社長、蛤浜区長の亀山さんご夫妻、陸前高田市の河野さんご夫妻のことを胸に、被災者の方たちの痛みを私たちは忘れてはならないと思いました。

そして蛤浜の漁業の復興、髙橋商店の工場再生を心から応援したいと思いました。

訪問の先々で、グリーンコープの支援に感謝の言葉を頂きました。私たち組合員の想いを届けて頂いた皆さんに感謝の気持ちで一杯です。ワンファミリー仙台、遠野まごころネットの皆さんの人の温もりを感じる支援にふれて、私も人に優しくありたいと思う3日間でした。そして共同事業が被災者の方の希望の明かりになることを願います。

## 息の長い支援の必要性を実感

**グリーンコープ生協ふくおか理事長　田原　幸子さん**

見渡す限り破壊された景色の中で、被災された方々にお話を聞きました。すべてを失った無念さや悲しさ、先の見えない不安感と日々闘ってこられた思いを深く心に刻むことになりました。また、現地ボランティアの方々などと出会い、グリーンコープは本当に困っている人に届く支援を行うことができていること、人と人の思いを繋いだあたたかい支援活動に感動しました。

震災から約半年経過して、瓦礫も片づき、仮設住宅への移住もすすみ、現地は復興へと前を向いて動いています。被災者の方々も将来を考えられるようになったそうですが、心の安らぎや日常生活が戻るのはまだまだと感じました。この惨事を風化させないよう、私たちのできる息長い支援の必要性を実感しました。

北海道の
小麦と納豆用大豆の
生産者との交流報告

共同体商品おすすめ委員会

# 北海道の生産者が丹精込めて作ってくれる小麦と大豆

7月12日から13日にかけて、共同体商品おすすめ委員会のメンバー11人で北海道の美瑛（びえい）町と鵡川（むかわ）町を訪問しました。

美瑛町農協は、「ぱん食パン」の原料である小麦「春よ恋」の産地です。2009年と2010年は不作で、「春よ恋」だけでは「ぱん食パン」が作れない状況が続いていました。しかし、今年の「春よ恋」は順調に育っています。一反（約10ａ）当たり7～8俵（1俵は60kg）採れると豊作で、麦の穂の頭が重くなり倒れると、大豊作の証と言われていました。あとは、収穫期に雨が降らないことを祈るだけです。

次の日は、美瑛町から3時間半かけて、「ぱすずまるつゆだく納豆」、「ぱすずまる小粒納豆」、「ぱすずまるつゆだく納豆」の原料となる、「スズマル大豆」生産量日本一の鵡川農協に到着しました。「スズマル大豆」の生育状況は、5月に植えて2ヵ月が経過したところで、害虫のマメシンクイガが近くの圃場で発生していました。「害虫が広がらないといいが」と生産者は心配していました。

また、2006年3月に鵡川農協の総会で「GMO（遺伝子組み換え）フリーゾーン」宣言がなされ、同年9月には黄色い大きな看板が立てられました。農協でnon-GM大豆の種子も確保され、農協全体で取り組まれているようすでした。10月末頃から収穫がはじまり、収穫後は水分が15％になるまで乾かされます。15％の水分量は納豆菌が付きやすく、おいしい納豆ができあがる秘訣のようです。

今回の視察・交流を通して、商品をたくさん利用することが日本の農業を守ることに繋がっていること、遠い北海道の生産者が丹精込めて作った原料で作られた食パンや納豆を利用できるありがたさを実感することができました。

共同体商品おすすめ委員長　阿部　恭子

※1グリーンコープ向けに「ぱん食パン」用の国産小麦をはじめ、米や小豆などを栽培している

※2「ぱすずまる小粒納豆」「ぱすずまるつゆだく納豆」用の大豆を栽培している

スズマル大豆の圃場に立てられたGMOフリーゾーンの看板の前で

組合員から生産者へ渡されたメッセージ

## グリーンコープに放射能測定室を設置します

東京電力の原子力発電所の事故は収束の目途も立たず、放射能汚染が拡散し、深刻さを増しています。これまでグリーンコープは、東京にある放射能汚染食品測定室（生活クラブ生協、大地を守る会と共同で運営）で、公表されている放射能汚染が心配されるエリアで収穫・生産・加工・保管されたものを検査して、共生の時代やホームページでお知らせしてきました。

グリーンコープとして、より迅速に十分な量の検査が行えるように、測定器を２台購入しました。グリーンコープ連合の物流センター内に測定室を設け、職員を配置して9月中に運用を開始できるように準備をすすめました。測定器はセシウム134と137を測定できる機能を備え、1台あたり、1日3～4検体の検査が可能になります。年220日稼動させると、1320～1760検体の検査が可能になります。

No.38

## 被曝するということ

「放射能は五感に感じない」とよく言われます。それは目にも見えず、臭いもなく、痛みも感じることがありません。1890年代キュリー夫妻が放射性物質ラジウムを発見しましたが、放射線が何であるか、放射能が何であるか、被曝することがどれだけ恐ろしいことかも知らない時代でした。

放射線の発見直後から、多くの人々に急性の放射線障害が現れ、被曝をすることが生命体にとって有害であることが少しずつわかってきました。ただ当時は、被曝後何年も経ってから症状が現れる障害についてはわかっておらず、生命体にとって大変危険な量が被曝限度とされていました。その後、多くの研究者により放射線による障害について、大量の被曝でなくても危険であること等がわかってきています。

現在、東京電力福島第一原子力発電所の事故により多くの人が目に見えない恐怖と闘っています。私たち大人が責任を持って、できる限りの知恵を絞り、未来ある子どもたちを守っていきましょう。

参考文献：小出裕章氏　「隠される原子力　核の真実」

グリーンコープ共同体組織委員会

## 東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑤

8月19日～9月12日までに検査した36品目について残留放射能は検出されませんでした。

| 商品名 | 製造日等 | 検査日（送出し日） | 放射能検査結果 セシウム134(Bq/kg) | 放射能検査結果 セシウム137(Bq/kg) |
|---|---|---|---|---|
| えのき茸（ブラウン）長野県（丸金） | 2011年8月6日 収穫 | 8月19日 | 検出せず | 検出せず |
| プルーン 青森県（津軽みらい農協石川） | 2011年8月7日 収穫 | 8月19日 | 検出せず | 検出せず |
| ぶどう（スチューベン）山形県　米沢郷牧場 | 2011年8月9日 収穫 | 8月19日 | 検出せず | 検出せず |
| りんご（つがる）青森県（津軽みらい農協石川） | 2011年8月7日 収穫 | 8月22日 | 検出せず | 検出せず |
| りんご（未希ライフ）青森県（津軽みらい農協石川） | 2011年8月7日 収穫 | 8月22日 | 検出せず | 検出せず |
| こしひかり（玄米）鹿児島県（さつま日置農協金峰） | 2011年度産 | 8月23日 | 検出せず | 検出せず |
| こしひかり（精米）鹿児島県（さつま日置農協金峰） | 2011年度産 | 8月23日 | 検出せず | 検出せず |
| コーンスナックキャラメル | 賞味期限 2012年1月15日 | 8月24日 | 検出せず | 検出せず |
| ポテトチップス（塩味） | 賞味期限 2011年11月21日 | 8月24日 | 検出せず | 検出せず |
| 草加せんべい（しょうゆ味） | 賞味期限 2011年12月27日 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| 草加せんべい（しょうゆ味） | 賞味期限 2012年1月15日 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| 草加せんべい（しょうゆ味） | 賞味期限 2012年2月4日 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| 草加せんべい（しょうゆ味） | 賞味期限 2012年2月9日 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| 銚子沖産真いわし開き210g | 2011年8月20日 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| おつまみ豆 | 賞味期限 2011年11月7日 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| 小松菜 福岡県（たのくら会） | 2011年8月23日 収穫 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| キャベツ 熊本県（清和有農会） | 2011年8月23日 収穫 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |
| ほうれん草 福岡県（小石原産直がんばろ会） | 2011年8月23日 収穫 | 8月26日 | 検出せず | 検出せず |

| 商品名 | 製造日等 | 検査日（送出し日） | 放射能検査結果 セシウム134(Bq/kg) | 放射能検査結果 セシウム137(Bq/kg) |
|---|---|---|---|---|
| デラウェア 山梨県（やまなし自然塾） | 2011年7月30日 収穫 | 8月 9日 | 検出せず | 検出せず |
| 笹餅（冷凍） | 2011年7月22日 | 8月10日 | 検出せず | 検出せず |
| 笹餅（冷凍） | 2011年8月4日 | 8月11日 | 検出せず | 検出せず |
| りんご 長野県（八ケタ会） | 2011年8月6日 収穫 | 8月11日 | 検出せず | 検出せず |
| 洋梨 長野県（ながの農協飯綱） | 2011年8月6日 収穫 | 8月11日 | 検出せず | 検出せず |
| 韓国味付のり胡麻風味 | 2011年8月6日 | 8月29日 | 検出せず | 検出せず |
| ギフト）北海道時しらず鮭 | 2011年5～6月 漁獲分 | 9月 1日 | 検出せず | 検出せず |
| 人参 北海道（有機農法すずらん会） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 1日 | 検出せず | 検出せず |
| 産直赤とんぼ米のライスバーガー牛肉玉ねぎ | 2011年8月12日 | 9月 2日 | 検出せず | 検出せず |
| 産直赤とんぼ米のライスバーガー牛肉ごぼう | 2011年8月18日 | 9月 2日 | 検出せず | 検出せず |
| 夢つくし（玄米）福岡県（筑前あさくら農協朝倉） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 5日 | 検出せず | 検出せず |
| 夢つくし（白米）福岡県（筑前あさくら農協朝倉） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 5日 | 検出せず | 検出せず |
| コシヒカリ（玄米）　鹿児島県（鹿児島きもつき農協田代支所） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 6日 | 検出せず | 検出せず |
| コシヒカリ（白米）　鹿児島県（鹿児島きもつき農協田代支所） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 6日 | 検出せず | 検出せず |
| バレイショ（メーク）北海道（有機農法すずらん会） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 7日 | 検出せず | 検出せず |
| ぶどう翠峰 山梨県（やまなし自然塾） | 2011年8月30日 収穫 | 9月 7日 | 検出せず | 検出せず |
| 玉ねぎ 北海道（釧子府有機農法研究会） | 2011年8月25日 収穫 | 9月 8日 | 検出せず | 検出せず |
| GCレトルトカレー（甘口） | 2011年4月22日 | 9月12日 | 検出せず | 検出せず |

**検査対象エリア**　グリーンコープは商品や原料について放射能汚染が心配される地域を関東から東北地方と考えています。文部科学省から出されている（新聞で報道されている）大気中の「環境放射能水準調査結果」を基礎に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く取り入れる商品及びしいたけ等放射性物質が蓄積しやすい商品は検査することにしています。

※水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されますので、その情報などをもとに漁獲海域によって、残留放射能検査をする対象を判断していきます。

**検査対象**　3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。

**検査機関・検査日**　「放射能汚染食品測定室」で行いました。表中の「検査出荷日」は検査のためにグリーンコープから、測定室に検体を発送した日です。到着後、２日以内に検査を行っています。

**測定結果の表記について**　検査商品の検出限界値は、精密には特定の検体を測定するごとに異なります。したがって、放射性セシウムの測定結果の表記について、0~1Bq/kg以下の場合は「検出せず」、また、各検査商品において検出限界値以下の検査結果の場合にも「検出せず」となります。検出限界値を超えた測定値で5Bq/kg未満の場合は、「検出（1～５Bq/kg）」と表記します。

**今後の報告について**
- 毎月、「共生の時代」で報告します。（ホームページには、週単位で掲載します）
- グリーンコープの基準値（放射性セシウム10Bq/kg）を超える残留放射能が検出された場合は直ちに報告します。

# 映画から人と人との つながりがみえてくる

いま地域を考える
No.217

**「音声ガイド・字幕付き映画（以下、バリアフリー映画）」は、映像を解説するナレーションの音声が入り、映像に字幕が付いている。視覚や聴覚に障がいのある人のための映画であると共に、年齢などに関わらず、誰もが楽しむことができることから、バリアフリー映画と言われている。**

**このバリアフリー映画を、たくさんの人に知ってもらいたいと、大分市内で活動しているのが「バリアフリーライフ・シネマ大分」だ。代表の梅木敏子さんや事務局の千綾（ちあや）陽子さん（共にグリーンコープ生協おおいた組合員）、他のメンバーに話を聞いた。**

## バリアフリーライフ・シネマ大分

「バリアフリー映画」は、視覚・聴覚に障がいのある人でも誰でも楽しむことができる。台詞と台詞の合間に、場面の視覚的情報を補う音声ガイドナレーションを副音声で聴く環境を整えれば、視覚障がい者も映像を想像することができる。また、聴覚障がい者も映像に字幕をつけることで映画を鑑賞することができる。

音声ガイドは、館内のスピーカーから音声を聴くオープン方式と、イヤホンで聴くクローズド方式とがある。クローズド方式は、あらかじめ録音した音声ガイドをFM電波にのせて流し、ポケットラジオで受信する。片耳はイヤホンから流れる音声ガイド、もう片耳は映画そのものの音を聞くという仕組みだ。

後列左から、千綾陽子さん、長澤タエ子さん、前列、梅木敏子さん

付き添いのボランティアと共に映画館に到着

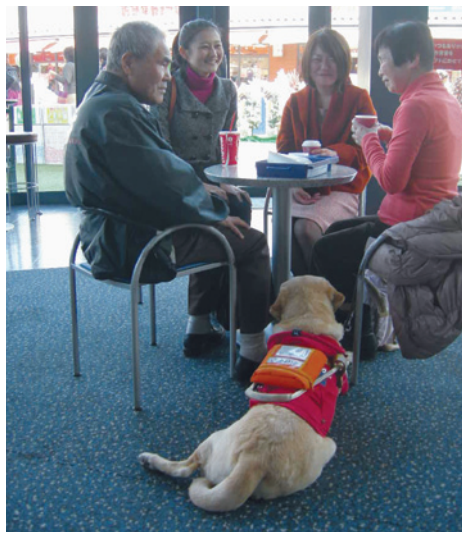
### 音声ガイドによって映画が観える

1987年、グリーンコープ生協おおいたで点字のカタログ配布をはじめたことから、おおいたでは視覚障がいのある人も利用しやすくなった。当時、梅木さんは点字カタログ利用者第一号だった。この点字カタログの取り組みをきっかけに利用者同士の交流を目的に組合員が活動するフリーサークルが立ち上がった。フリーサークルのメンバーだった千綾さんは、2007年、新聞記事の中に福岡の映画館で「音声ガイド・字幕付き映画（バリアフリー映画）上映」の文字を見つけた。早速、フリーサークルで出会った視覚障がいのある友人たちを誘い、初めてバリアフリー映画を体験した。

上映された映画は「武士の一分」。情景、役者の表情や、目の動き、刀の構え方などが丁寧に解説されていた。「久しぶりに映画を観た気がする」。友人たちの笑顔と、映画の事細かな場面を共有しあえたことが嬉しかった。千綾さんはそれからもバリアフリー映画を上映している映画館を探しては友人たちを誘った。その後は、フリーサークルの仲間たちともバリアフリー映画を何本か鑑賞した。

回を重ねていくうちに「私たちが味わったこの感動をいろんな人に知ってもらいたい」とメンバーから声が上がり、2007年、市内のホールを借りて、バリアフリー映画のDVD自主上映会を行った。

先天性視覚障がい者の梅木さんは、これまで映画を観たことはあったが、解説がないためストーリーがぼんやりとしか理解できず、興味を持てなかった。初めてバリアフリー映画を観て「台詞と台詞の間（ま）は私には観えないので、『何をしているんだろう』としか思っていませんでしたが、ガイドが入るととても分かりやすかった。情景、役者の表情やしぐさがつぶさに描写され、心境の変化までも想像することができました。これまで感じることができなかったことが音声ガイドから伝わってきます」と感動を語った。メンバーの長澤さんは、「目が見える人でも音声ガイドがあると、きめ細かい描写に気付いて分かりやすい。目や耳が不自由な人だけでなく、高齢者にとっても役に立つのでは」と話す。



鑑賞会後は、映画の感想を交えながらおしゃべりに花を咲かせる

フリーサークルでDVD自主上映をした際、著作権のことで支援企業に1通のメールを送ったことがきっかけとなり、大分市内の映画館でもバリアフリー映画の上映が行われるようになった。2008年には3本の作品を鑑賞することができた。

サークルのメンバーは映画のPRや、上映映画のお便り案内、視覚障がい者の付き添い誘導などのサポートを行う他、一般の人へも、「体験して知ってほしい」と参加を促した。毎回20人ほどの参加があり、約50人のボランティアが関わった。盲導犬も2～5頭加わって、にぎやかな鑑賞会となる。

同年7月、サークルから独立して会を立ち上げ、名称を「大分バリアフリー上映をサポートする会」とした。

### 人との出会いから活動が広がっていった

2010年、グリーンコープの福祉活動組合員基金の助成を受け、クローズド方式での音声ガイドを行う際に必要な音声送信機器と、ポケットラジオ25台を購入。それまで年に数回だった鑑賞会が2ヵ月に一回行えるようになった。バリアフリー映画の存在も広く知られるようになり、徐々に会員の数が増えている。

入会費・年会費共に1,000円。会員へプリントと点字の案内文書を送付している。鑑賞会後の交流会では、食事をしながら映画の感想を語りあうなどさまざまな交流を図り、人と人との輪が広がってきている。現在、会員は約50人。役員7人が会の活動を支えている。

### さまざまな人たちが交流しあえる場を

2010年7月、「視覚や聴覚に障がいのある人たちへのサポートだけではなく、いろいろな人たちが理解しあえる楽しい会にしたい」と、気持ちを新たに「バリアフリーライフ・シネマ大分」に改称した。

2011年10月30日には、舞台俳優で音声ガイドの経験も豊富な、檀鼓太郎さんの生ガイドでの上映会を予定している。「録音の音声ガイドとは違い、檀さんのガイドからは自分が見えているような感覚になるくらい伝わってくるものがある。貴重な生ガイド上映会の機会に音声ガイドの存在を知ってもらえたら」と梅木さん。

千綾さんは「フリーサークルからはじまった会の活動が、さまざまな人との交流と共に、地域に自然に広がっていきました。これからもバリアフリー映画が一つのきっかけとなって、障がい者、高齢者など、いろいろな人たちにやさしい地域づくりにつながっていくと思っています」。そして、梅木さんは「おおいたで取り組んできた点字・音声カタログが、グリーンコープの中でもっと広がっていくことを願っています」と語った。

## 2011年8月の組合員数 393154人

（8/20現在）

| | |
|---|---|
| リユース リサイクル データ 2011年7月分 | 牛乳びん 回収本数 730,422本 回収率 100.3%（6月19日～7月16日回収分） |
| リユースびん 回収本数 171,624本 回収率 55.3% | トレー 回収重量 9,671kg 回収率 49.7% |
| モウルドパック 回収重量 29,640kg 回収率 82.2% | 仕分け袋 回収重量 1,222kg 回収率 6.3% |

**フードマイレージ**

2011年8月までに組合員の利用によってたまったのは 123,750,145.0 poco

$CO_2$に換算して12,375トンを削減したことになります

**アジア民衆基金**

2011年8月までに組合員の利用によってたまったのは 18,251,826円

放射能汚染測定結果は、7面の残留放射能検査結果に掲載しています。